

会報

VOL.8



波止場町便り

2024年1月31日発行

会報再開にあたって

日本で唯一の町名を持つ場所の、現在と過去と未来に関わる



会報再開にあたって

① 会報再開にあたって

2017年4月1日に、会報『波止場町通』創刊号が発行された。それから2019年2月5日まで、不定期刊で7号まで発行された。

2014年6名の発起人で始まった『まちづくり協議会』は2015年5月に設立総会を開催した。この会員間の交流を深めると共に活動を会内外に知らしめるために『会報』の発行が企画された。『会報』は会員各団体に配布されると共に、公共の場にも置かれることになった。『会報』での「会員紹介」は各号で2社（団体）ずつ進めていったので、14社まではいったのだが、コロナ禍ということもあり、中断状況となってしまった。

2023年5月のコロナ対策緩和を契機に、『まちづくり協議会』も7月に第9回通常総会を開催し、HPの刷新と一つのものとして『会報』の再開を図ることとした。

② 神戸ジルバはどこへ

『会報』は①会員への報告 ②会員以外への会の宣伝・活動報告が中心となるのだが、写真パネル設置と同様にそれ自体が記録として活用できるように考えた。よく聞かれることなのだが、『まちづくり協議会』とは？いったい何をやりたいのか？何を指しているのか？答えは「波止場町」という**日本で唯一の町名を持つ場所の、過去と現在と未来に関わる**ということである。

私見になるが『まちづくり協議会』の第1期は2014年からのイベント開催時期だろうと思う。発起



人主催で2014年秋に開催されたイベント『波止場町通Actionダンス・ダンス・ダンス』は波止場町の歴史始まって以来の文化的・社会的出来事であった。このイベントは屋内外で数年連続開催されたのだが、その推進エネルギーは「神戸ジルバ」を創造し普及させようという発起人たちの奇妙な情熱であった。

いまだに出来上がっていない「神戸ジルバ」を勝手に幻想し、それを普及させるためにイベントを活用しようとする思いの中には「まちづくり」の中に新しい神戸（みなと）らしさを発信したいとの目論見があった。結果としてその目論見は実現しなかったが、イベントとしては様々な課題を乗り越え、波止場町での新たな局面を切り拓いた。イベントは2014-6年と開催されたが、2016年は前2回と区



別され、発起人世代から若い世代に企画が交代する中で、「神戸ジルバ」への奇妙な情熱は封印されることとなる。

第2期は、神戸開港150周年事業とタイアップした2017年から始まる記念碑プレートと『近代荷役の地一弁天浜・国産波止場』記録誌発刊である。

95年の大震災以降、風景も人も大きな変化を続けるこの波止場町通周辺を、失われた過去を記録として残すことで、今が過去の上に立つ現在である事を視覚と思索の両面からこの場所に留めようとした。

③ 現在の私たちの立ち位置と今後

現在は第3期である。イベント開催を通しての協議会結成が第1期。その後の歴史遺産の保存と、記録が第2期。ようやく10年になろうとする「まちづくり協議会」であるが、あらためて会の活動と進路が問われている。というのも、元々は「波止場町通」に所在する企業や団体が急激な環境変化の中で「何故ここにいるのか」と云う所から始まって、どこに行くのかという情報の共有と方針の確定が求められていたが、なかなかそこへと至れないからである。

「波止場町通」という場所の、過去—現在—未来をめぐって会はあるはずなのだが、過去は学習で共



有できても、現在と未来はその評価をめぐって多様であり、一つにまとまるには外的力があってこそである。

過去と現在の繋がりに重きを置くのか、現在と未来のどこに重きを置くのかで立ち位置は当然変わる。2期目までの事業目的—過去から現在へに繋がる未来の「まちづくり」が並行して進む。「まちづくり協議会」の事業目的は「第9回総会」報告記事を参考にしていただくとして、『会報』再開にあたって改めて以下のことを強調したい。

- ①町名の由来にあるように「波止場町」は「メリケン波止場」「国産波止場」の歴史を反映するだけでなく弁天浜、高浜などの歴史も反映する地域である。
- ②国産波止場の舳、弁天浜にあふれかえる常用、日雇港湾労働者。企業・行政を含め神戸港を象徴する地域であり、港文化の発信基地でもあった「波止場町」。今でも港職業安定所や港湾企業が存在し、港湾労働者のための住宅や施設が残る「波止場町」。この狭い地域に複数あるライブハウスとリゾートホテル。混沌とした地域である「波止場町」。この地域の過去—現在—未来を記録に留め、発信するために『会報』は再開される。

(会報「波止場町通り」編集委員会：磯田和男)



第9回通常総会

2023年7月14日於:まちづくり会館

第9回通常総会は、コロナ禍を乗り越え、従来の会議形式に戻し開催いたし、(委任状も含め)全22会員全員の皆様から原案通り各議案に賛成のご承認をいただきましたことを、ご報告いたします。

(決議の内容・ご通知)

第1号議案 令和4年度の活動報告の件では、神戸運輸監理部主催の海の日イベントへの協賛(7/18メイフェア様ご提供の記念品(100個)を記念碑パネルの説明をお聞きいただいた方にお渡しする企画で、会員が記念碑パネル前で説明をしました)や神戸港の歴史を語り継ぐ出前授業に協力し、5/16(好徳小学校)・11/4(鷹取中学校)の生徒に田森会長が神戸港の話をしました。

また、11/13に今田副会長が選手として出場したアマチュア・ボクシング大会(長谷川穂積カップ杯)がハーバースタジオ内で開催され、地域のにぎわいの創生等の趣旨に賛同し、会員も当日観戦しました。

10/21に月例交流会が開催されましたが、その前に出席者全員で波止場町通りの清掃を行いました。

なお、写真パネル増設のためにクラウドファンディングを始めようと正副会長並びに理事の拡大会議を計7回実施し協議してきましたが、検討の継続を確認しました。

第2号議案 令和4年度決算承認の件では、コロナ禍のため大きな活動が出来ず、最小の収支となり、収入は納入会費と波止場町通り駐車場の管理業務受託料・受取利息、費用はHP保守管理料・写真集の保管料・ゴミ袋等購入費・協賛金の支払、と

なった旨の決算を報告し、また、監事の方の会計監査を受けて了承を得ている旨を説明し、令和4年度決算は承認されました。

第3号議案 令和5年度の事業計画(案)の件では、事業計画説明の前に、5/14に協議会として初めて主催・開催したトルコ地震支援チャリティーイベントはお蔭様で盛況で、会場での募金を含めた剰余金は51万円となった、との報告があり、承認されました。

また、集まった義援金の処置については、7/6にトルコ共和国名古屋領事館宛に銀行振込し、別途贈呈の目録を作成して、7/7に神戸トルコ友好協会の方にお渡しして、7/13に名古屋総領事に手渡ししていただくことになりました。なお、名古屋総領事に手渡す際の記念写真と受領書を取っていただくようお願いしております、との報告があり、併せて、承認されました。

本年度の事業計画は、①会費の増額(1万円から2万円*個人事業主で減免申請書の提出をされた方は1万円のまま)及び会員の拡大の件は承認されました。(*別添の通り規約の変更をいたします。)②記念碑パネルの増設の件は、クラウドファンディングの活用を検討しながら、今年度は自前でも記念碑パネルの増設を目指すことといたします。③神戸港の歴史を語り継ぐ事業の推進は、今後とも神戸運輸監理部の出前授業や海の日イベントに協力しながら、神戸港の港湾の歴史を語り継ぎます。④受託事業;波止場町通り駐車場の管理業務。K協議会としては、波止場町通りの環境整備・清掃活動を行って

いきます。⑤写真集販売の件は、写真集の在庫は現在700部あり、販売を考えていますが、今後のクラウドファンディングでの返礼品等の動向も考えながら、また、学校等への無償提供も併せて検討していくことといたします。

⑥今後のホームページの進め方とその活用については、HPを充実させるとともに、HPを活用し、今後会員への連絡はHPのマイページを使うようにしたい旨の意向が示された。⑦会報波止場通信発行の件は、今後8号からHP上で発行し継続することとする。⑧忘年・X'masイベント実施の件は、今年度は実施することとし、12月1日（金）開催の予定で進めることとする。

⑨月例交流会開催の件は、会員の懇親が中心ではあるが、今後は別途内外から講師（走水神社の宮司＝会員や神戸市港湾局の課長、神戸運輸監理部の課長、ハローワークの所長、趣味の達人、音楽・アートに造詣の深い方等、話題性のある方）をお呼びして話を聞く会も行いたい。⑩協賛事業及び協賛金支出の件については、本年4月16日生田神社の生田祭子供みこしのお世話係の依頼が波止場町通まちづくり協議会にありましたが、結局メイフェアの宮内様お一人にお願いすることになり、当日一日中子供みこしに付き添っていただきました。ありがとうございました。改めて、御礼申し上げます。

第4号議案 役員選任の件では、本総会をもって役員全員の任期満了に伴い、新しい役員の選任が行われました。結果、田森会長の顧問就任、会長の交替、副会長・理事の増員、理事は業務分担を具体的に定めて機能的で動きやすい体制とし、以下の通り新役員が選任されました。

- 会 長 （新任）青井基洋（住井運輸）
- 副会長 （再任）永田雄一郎（住井運輸）
（再任）今田晶博（ハーバースタジオ）
（再任）宮本 亮（KDS）
（新任）佐藤 徹（住井運輸）
- 顧 問 （新任）田森 豊（木下商会）
- 監 事 （再任）服部一郎（ニッケル&ライオンズ）
（再任）實 謙二（商船港運）
- 理 事 （再任）宮内清治＝企画担当（メイフェア）
（再任）磯田和男＝会報編集担当（全港湾）
（新任）土井 亮＝イベント担当（A&D）
（再任）内野洋介＝事務局（甲陽運輸）
（再任）丸田将吾＝事務局・HP担当（KDS）
（再任）片岡行雄
＝事務局・会計担当（住井運輸）

なお、任期は2年となります。



会員紹介

株式会社木下商会

弊社は明治45年(1912年)、川西倉庫の専属荷直し業者「木下組」として発足しました。

後に昭和22年(1947年)には社名を「株式会社木下商会」に変更し、2022年には設立75周年を社員で祝うことができました。弊社の具体的な業務内容としては神戸港におけるコンテナラッシャー作業・船内大工作業、ばら積み船作業・ブレイクバルク作業・上屋作業・RO-RO(自動車専用)船作業等があり、貨物船やコンテナ船の積み荷が崩れないように固定する作業(ラッシング)に従事しています。

弊社は長い歴史の中で世代を超え受け継がれてきた「高度な船内大工技術」を次世代に伝承し、築き上げてきた「信頼」を大切に安全作業に徹することで、これからも本船の安全な航海を支え続けていきます。(総務部 管理者 石橋 広道)

株式会社KDS

弊社は2010年に設立しITソリューション事業を事業内容としております株式会社KDSです。

新しいテクノロジーやサービスが日々開発されている昨今。時代の流れは常に加速しております。そのような環境の中で、当社が果たすべき役割はサービスを利用するユーザー様とテクノロジーのチューニングと考えます。

また、コミュニケーション・アイデア・クリエイティブの3つのビジネスマインドを日々養い一つひとつのプロジェクトを全力で遂行すること、そして着実に成長し続ける事を理念としイノベーションを創造する企業として、社会貢献に繋がるサービスの提供を行っています。

弊社は以前、海岸通にオフィスを構えていた際に神戸港を発信する企画を、当時、波止場町通にオフィスがあったNPO法人様と取り組んでおりました。

その中で、田森前会長のお話や皆様のお話を聞く中で弊社も微力ながら、もっと神戸港の魅力の露出や歴史を継承し、進化させ未来へ繋いでいくことに貢献できることがあるのではないかと思います、協議会に加盟する運びとなりました。

(株式会社KDS 宮本 亮)

トピックス

10月2日に東京の方よりHPから写真集購入の申し出があり始めてお買い求めいただきました。



会員一覧

- 株式会社木下商会
- A&D MUSIC
- 中央港運株式会社
- 株式会社メイフェア
- 神菱港運株式会社
- 上津港運株式会社
- 住井運輸株式会社
- 全港湾神戸弁天浜支部
- 走水神社
- ニッケル.エンド.ライオンズ株式会社
- 株式会社アバストコーポレーション
- 昌栄運輸株式会社
- 甲陽運輸株式会社
- 株式会社住友倉庫 神戸支店
- 株式会社クリアス
- 二和興業株式会社
- 早駒運輸株式会社
- 兵庫県信用組合本店営業部
- 株式会社KDS
- 株式会社ユニオンエージェンシー
- 株式会社アテネエンタープライズ
- 商船港運株式会社
- 株式会社ラスイート
- 株式会社ハイファイブ

(順不動)